

自殺要因 社会にまん延

南区でシンポ 予防や遺族支援議論

2012.9.9
産経新聞



シンポジウムで意見を交わす登壇者ら(8日、京都市南区・龍谷大アバンティ響都ホール)

「肯定感を持ち続けられる社会環境づくりが大切」と述べた。続いて、若者の労働問題に取り組むNPO法人「POSSE」京都支部の岩橋誠事務局長(22)や自死遺族サポートチーム「こころのカフェきょうと」の

石倉紘子代表(68)、岩室さんらによるシンポジウムがあった。

岩橋さんは職場うつが自殺につながる危険性について事例を交えて報告。石倉さんは、夫を自殺で失ったり自死遺族支援に関わる経験を語り、「遺族は社会的にも孤立する。行政、民間と連携した遺族支援や自殺予防が重要だ」などと訴えた。

(山田修裕)

自殺予防と自死遺族支援のための府民・市民公開シンポジウム
自死7割が男性の時代を考える

自殺予防や自死遺族支援を考えるシンポジウムが8日、京都市南区の龍谷大アバンティ響都ホールであった。自殺者を生む社会の問題や対策の必要性について話し合った。

シンポは京都府や京都市、京都自死・自殺相談センターなどが主催し、6回目。全国の自殺者数は1998年以降、毎年3万人を超え、うち約7割が男性が占めることから、「自

死7割が男性の時代を考える」をテーマに開催した。

はじめに、ヘルスプロモーション研究センターの岩室紳也センター長(57)が基調講演した。岩室さんは、失

業や病気、人間関係の不和など自殺につながる要因は社会全体にまん延し、人と人との関係性が失われるとリスクは増大すると指摘。「自殺は限られた人だけの問題ではない。自